この PDF は以下の書籍の一部を抜粋したものです。
吉村 大樹・カマラ・グリエヴァ. 2023.『アゼルバイジャン語: 文法教本』府中: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
「第 1 課 母音調和」(pp. 12–14)

ILCAA
Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa

第 1 課 母音調和

コピュラ語尾-dIr と、母音調和 I 型

アゼルバイジャン語で名詞や形容詞が述語になるときは、その述語の主体が誰であるかを表す語尾（付属語）を付加します。したがってこの語尾は、その述語が表す主体（ここでは、主語と考えてください）が誰かによって形式が変わります。この第 1 課では、述語の主体が「私、あなた」以外の第三者、たとえば、「彼」、「彼女」、「うちのネコ」etc... のときの文の構造について確認しましょう。

「A は B だ」

主語(A)	+	述語(B)	+	付属語 =dIr (=dır, =dir, =dur, =dür)

※本書では、付属語が前の語と接続する部分をイコールの記号(=)で表します。
また、=dIr 語尾のうちの母音部分（I の箇所）のように大文字で表す部分は、いくつかある変化の形を代表していることをあらわします。

これら 4 つの異なる形式の使い分けがどうなっているかを下の例で見てみましょう。

Bu, kitab**dır**.	※これは本です。
Evim təmiz**dir.**	私の家はきれいです。
Sevil türk**dür**.	セヴィルはトルコ人です。
Takeşi yapon**dur**.	タケシは日本人です。

※指示代名詞（→第 4 課参照）bu「これ」や o「それ；あれ」を主語として用いるときは、直後にコンマを書き記します。これは、bu kitab「この本」や o kişi「その（あの）男性」のように、指示詞が後に続く名詞を修飾するパターンとの使い分けをするためと考えるとよいでしょう。

上の例から、それぞれ述語部分の語尾のところで、母音の部分が変化していることがわかります。これらが変化する法則は、次のようになっています。このように接辞の母音部

分が直前の母音の種類によって変化する現象を、**母音調和**と言います。

語尾が付加される前の部分の最後の母音が：			
a, ı	なら	-dır	
e, ə, i	なら	-dir	
u, o	なら	-dur	
ü, ö	なら	-dür	となります。

母音調和には、大きく分けて 2 つのタイプがあります。本書では便宜的にそれぞれ「I 型」と「A 型」と呼ぶことにします。先ほどの「である」を表す接辞の母音調和は I 型に属するもので、4 種類の変化形があります。このタイプの母音の変化を表にまとめると、次のようになります。

母音調和 I タイプ

	前舌母音		後舌母音	
直前の母音部分が…	e, ə, i のとき	ü, ö のとき	a, ı のとき	u, o のとき
母音部分は…	i	ü	ı	u

前舌母音（アゼルバイジャン語では e, ə, i, ü, ö が相当します）とは、発音する時に舌の盛り上がりが口腔の前の方にくる母音、後舌母音（アゼルバイジャン後では a, ı, u, o が相当します）は舌の盛り上がりが口腔の後ろ寄りになる母音のことをあらわします。

本書ではこれらの変化を示すような母音の代表形を、大文字の I で表すことにします（I 型という名称は、これにちなんだものです）。最初は正確な母音調和を身につけることが難しく感じられるかもしれませんが、実践を多くこなして徐々に慣れていきましょう。

名詞の複数形(-lAr)と母音調和 A 型

アゼルバイジャン語の接辞の中には、文の述語に付加される-dIr のような 4 種類に変化する（つまり、前項で導入した I 型）のもののほかにもう一つ、母音部分が直前の母音の種類に応じて a か ə かのどちらかに変化するもの（A 型）があります。
A タイプの代表的なものは、名詞の複数形-lAr です。

uşaq　子ども　uşaq**lar**　a に合わせて、複数形語尾は-lar となります。
sürücü　運転手　sürücü**lər**　ü に合わせて、複数形語尾は-lər となります。

これらが変化する法則は、次のようになっています。

語尾が付加される直前の母音が			
a, ı, u, o	のときは	-lar	
e, ə, i, ü, ö	のときは	-lər	となります。

※e と ə は字形が似ていて混同しやすいかもしれませんが、一般的に e は接辞に含まれる母音として出てくることはありません。

A 型の母音調和を I 型と同様に表にまとめると、次のようになります。

母音調和 A タイプ

	前舌母音	後舌母音
直前の母音が…	e, ə, i, ü, ö のとき	a, ı, u, o のとき
母音部分は	**ə**	**a**

本書でもこれからいろいろな文法的意味を表す接辞が本書では出てきますが、いずれもそれらのすぐ前にある母音のタイプに調和するかたちで母音部分が変化する、ということを念頭にいれておくとよいでしょう。